

確かな学力を育む授業改善

～学力の定着と深い学びを目的とした個にあった様々なアウトプット（表現活動）の実践～

1 研修の目的と基本方針

本研修では、生徒の「確かな学力」を定着させるために必要な授業づくりの在り方について協議を行った。結論として、「良質なインプットがあってこそ、効果的なアウトプットにつながる」という共通認識のもと、ICT 機器（タブレット・生成 AI 等）の有効活用や協働学習の充実を通じた授業改善を推進していく。

2 重点的な取り組み事項

(1) 質の高いインプットの確保と授業の導入

① 生徒の興味関心に基づく導入設計

日頃から生徒の関心事（トレンドや身近な話題）にアンテナを張り、授業の導入や展開に取り入れることで、学習へのモチベーションを高める。

② 冒頭の振り返り（短時間アウトプット）

授業の冒頭で前時の振り返りを手短に行わせる（常時活動化）。既習内容を整理・復習した上で、本時のインプットへスムーズに移行する。

(2) 目的を明確にした ICT(タブレット・生成 AI)の活用

ツールを使うこと自体を目的化せず、学びを深める手段として活用する。

① 「調べる」以外の活用推進

「オクリンク」を用いた意見の集約・共有、班での共同作成物の編集、生成 AI を活用した自由進度学習など、多様な学習場面を取り入れる。

② 活動の可視化と記録

生徒の活動状況等を画像・動画で記録・撮影し、活動結果を可視化することで生徒の達成感を育む。

(3) 「個別最適なゴール」と「生きたアウトプット」の設定

① 少人数（習熟度別）のゴール設定

生徒の習熟度に応じてアウトプットの目標を設定する。最終的には生徒自らがゴールを設定できるような問い・課題の工夫を行う。

② 実際の場면을想定した言語活動（英語科等）

単なる暗記や文法確認にとどまらず、実際のコミュニケーション場면을想定した質の高いアウトプット機会を設ける。

(4) 教え合い・協働活動の充実と学習環境の整備

① 教え合い活動の定着

教え合いは一人一人の理解度を確保する有効な機会であり、時間調整もしやすい。ペアワーク等をより積極的に取り入れる。

② 座席・板書の工夫

協働学習へ即座に移行できるよう座席配置を工夫し、議論や思考を促す板書構成を心がける。

3 規律とマインドの共有(生徒への伝え方)

① わかりやすい言葉で学習規律や服装の意義を伝えることで、安心して学べる場をつくる。

身だしなみ・服装：「学びの場の標準装備」「見られる・伝えることを意識した姿」

学習規律：「準備はスタートライン（チャイム着席等）」「間違いはチャレンジの証」

4 今後の展望

現在順調に進んでいる生成 AI やタブレットの活用を基盤とし、自由進度学習や協働的な学習、帯活動による知識の定着など、できるところから段階的に授業実践へ取り入れていく。